

1932(昭和7)年～2022(令和4)年

1. 経歴・狭山市との関わり

狭山市祇園の農家に10人弟妹(男4人、女6人)の長男として生まれる。1945(昭和20)年に川越の中学校へ入学。通学路の店先にあったミレーの複製画と『洋画技法講座』に掲載されていたシスレーの風景画との出会いが美術の道に進む原動力となった。在学中、川越市内の彫刻家のアトリエに通いデッサンの勉強を始めた。

1954(昭和29)年4月、念願の東京芸術大学彫刻科に入学。1958(同33)年卒業。飯能市、狭山市の公立中学校美術科教諭として26年間勤めた。1978(同53)年、狭山市美術家協会の設立に尽力。狭山市美術家協会展開催。その他、狭山市民展の展示指導・青少年美術育成会作品審査・小中学校七夕絵画展作品審査等に積極的に関わった。

1984(同59)年、自宅の庭に<彫刻の庭ギャラリー祇園>を開設した(1993年閉廊)。2005(平成17)年より17年間美術家協会の代表を務め、また狭山市文化団体連合会理事や役員として市の芸術文化向上のために尽くした。近隣5市美術協会副会長・埼玉県美術家協会会員。埼玉県展招待。



2. 主な業績



(弘子夫人の像)

- ・1975(昭和50)年、所沢市山口観音金乗院鐘楼に天井画「日輪」制作。
- ・1985(同60)年、「立体の膨張—石彫」県展特選・県知事賞。
- ・1989(平成元年)年、国民文化祭`89 さきたま緑道(行田市)に「六面体の膨張—石彫」設置。
- ・1991(平成3)年、「華—石彫」県展特選・会長賞。県展審査員になる。
- ・1991(平成3)年、狭山市智光山公園に「膨張する六面体—石彫」設置。
- ・1998(同10)年、国際公募アート未来展で、「森の花—木彫群」準大賞。
- ・その他、狭山市の老人施設、幼稚園、大学に、石彫・ブロンズ像・木彫・陶壁・レリーフが設置されている。

3. 特筆

画材を買うためアルバイトもした。高校卒業後は、デッサンの勉強時間を確保するために自宅近くの農協に就職した。納屋が受験勉強(デッサン)の場所で、家ネズミに励まされての猛勉強の2年間だったという。1989(平成元年)年8月30日開催の「アパートヘイト否!国際美術展 狭山展」では、ギャラリー祇園で資金集めのバザーを実施するなど、実行委員長として尽力した。2022(令和4)年9月、彫刻の庭ギャラリー祇園の再開の計画中に逝く。享年89。翌年の2023年、弘子夫人の像が埼玉県庁に展示され、多くの来場者を惹きつけた。

〈インタビュー〉 夫人・水村弘子氏

〈参考文献・資料〉 水村 昭著『わが人生の断片 若き日のあしあと』・「狭山市美術家協会 沿革」

狭山市文化団体連合会「狭山の文化人を知ろう」プロジェクト

文責・板屋 捷子 2024. 2